

CHECK!!!



**スミレ**  
日本だけで90種を超えるが、その代表格。高さ7~11cm。横から見た形が大工道具の「墨入れ」に似ているところから名が付いた。



**アオモジ**  
落葉小高木で3月ごろ春の訪れを告げてレモン色の花を咲かせる。よく似た木に「クロモジ」があるが、樹皮が緑色のためにその名がある。



**ナンパンキブン**  
アオモジと同様3~4月に、まだ冬枯れの雑木林に薄黄色の下垂れた房状の花を咲かせる。かんざしのようだった。

ウォーキングメモ

美しき天然

昭和30年、全国で18番目の国立公園として『西海国立公園』が誕生した。世界で初めての海の国立公園である。それは九十九島の美しさが認められたからだろう。その自然の美をテーマにして、佐世保海兵団楽長の田中穂積が、明治32年に作曲したのが『美しき天然』である。サーカスのジンタとして日本中に広がっていた。烏帽子岳の広場にある碑の字は、作詞した武島羽衣のもの。



ウォーキングメモ

烏帽子岳山頂の神々

『佐世保富士』と呼ぶ人もいる烏帽子岳。溶岩台地を形成している。市街から最もよく見える山頂には、いくつもの神々が祀られている。古くは山岳信仰の山でもあったのだろう。「猿田彦大神」は、高千穂に瓊瓊杵尊(ニギノミコト)を案内した神様。開拓や旅の安全の神として信仰されている。



D 烏帽子岳山頂に西側から登る。背景には相浦谷が見える。



E 烏帽子岳山頂から望む佐世保市街。



C 急傾斜の登りをあえぎながら登っていく。



G 木場山の近くにある展望台。黒髪は一望に。



H 満場越から隠居岳に向かう途中にある、古い道標。



B 登山口からすぐ、山道となる。



A 山祇町バス停から歩いて5分ほどの所に登山口がある。



I 隠居岳への急な登り坂。

ングシューズの裏に湿った土の感触を感じる。それだけなのになぜか楽しい。山水の溜まりにサンショウウオの卵を発見した。みんな子どものように喜んでいく。柔らかな疲労感に包まれるころ、宇土越の登山口に着いた。約4時間のコースだった。



I 隠居岳の山頂。三川内や有田方面が一望出来る。

だ。やがて親子堤に出た。このあたりからは黒曜石の破片など縄文時代の遺物が出る。烏帽子岳の大地は、大昔は生活の場だったようだ。途中に『百年の森』があった。烏帽子分校跡の前を通って満場越から隠居岳へと向かう。かつて牛がのんびりと姿を見せていた丘に登ると、やがて丸太作りの木場山展望台に着いた。ここからは黒髪町や早岐方面が望める。木場山の裾を通って隠居岳へと続く。アオモジやナンパンキブシの花房が春を告げている。日ごろ見過ごしている花や木が、やけに気になる不思議。そして最後の傾斜を登ると、隠居岳に着いた。670mの緩やかな山頂だ。三川内や波佐見方面が望め、峰の向こうには虚空蔵山がかすんで見えた。隠居岳から先は尾根伝いの下りとなる。シイ、カシ、タブ、ツバキなどの照葉樹林を歩く。新芽の匂いが胸を満たし、トレッキング

コース 1

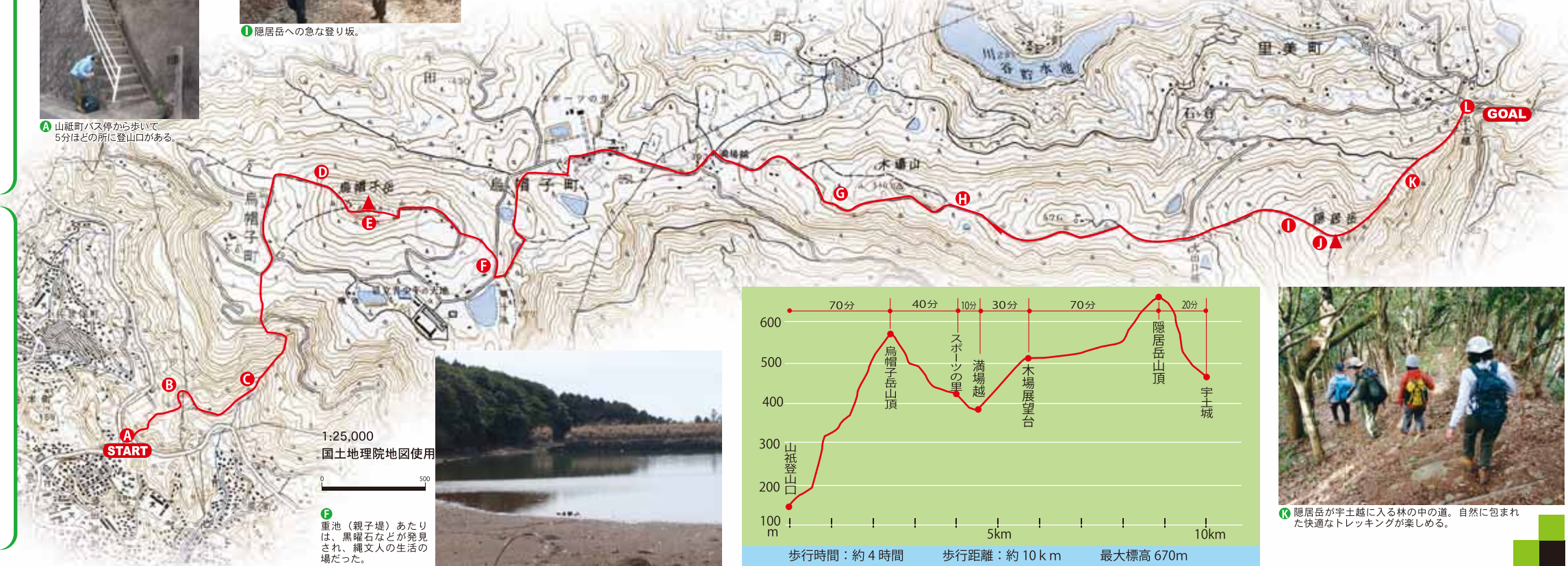
烏帽子岳登山口から隠居岳を越えて宇土越まで

深い森の山道を登っていく

市街地から登ることになると登山口は山祇町だ。『山手黒髪線』の新道で切断されたコンクリートの壁が登山口になっている。その階段を上ると、霊園の上に沿った山道に出た。自然林が昔のままにあって、なんだか懐かしい気分になる。小学校の頃に汗を流しながら登った記憶が蘇ってくる。砂岩がゴロゴロした急傾斜の道だ。「このあたりは国見溶岩台地で、烏帽子岳は安山岩質。標高三百メートルくらいまでは九十九島と同じ砂岩だよ」。楽山会の平田佳邦さんが説明してくれる。平田さんは日本百名山をほとんど登った山歩きのパノラマだ。木漏れ陽さえ通さない照葉樹の森が続く。東側から山頂に挑む。杉の植林が伐採され、最近まで見えなかった相浦谷が一望できた。杉を伐採して放置するだけだから、日本の植林事業は一体なんなのか、と考える。烏帽子岳山頂は360度のパノラマだ。眼下には市街と佐世保湾が広がる。俵ヶ浦半島を越えて九十九島も見える。山頂から下ると、『風と星の広場』と名付けられた草原で、周辺は西海国立公園となっている。一画に『美しき天然』の碑がある。田中穂積がこの自然の美しさをテーマに作曲したという。碑文の筆は作詞の武島羽衣によるもの。駐車場の隅には観測台があって、秋にはアカハラダカの渡りが見られる。車道ではなく、途中から自然林の中の小道を通ることになった。思いがけず静かな山の道だ。やがて親子堤に出た。このあたりからは黒曜石の破片など縄文時代の遺物が出る。烏帽子岳の大地は、大昔は生活の場だったようだ。途中に『百年の森』があった。烏帽子分校跡の前を通って満場越から隠居岳へと向かう。かつて牛がのんびりと姿を見せていた丘に登ると、やがて丸太作りの木場山展望台に着いた。ここからは黒髪町や早岐方面が望める。木場山の裾を通って隠居岳へと続く。アオモジやナンパンキブシの花房が春を告げている。日ごろ見過ごしている花や木が、やけに気になる不思議。



I 宇土越側の登山口。このルートでは県道53号線と交わるここが終点



K 隠居岳が宇土越に入る林の中の道。自然に包まれた快適なトレッキングが楽しめる。